



学校法人 瓜生山学園

京都芸術大学  
大学院

# 京都芸術大学 大学院

KYOTO UNIVERSITY OF THE ARTS GRADUATE SCHOOL

入学案内 2024

学生の数だけ、創造性があり、伸ばし方がある。

京都芸術大学 大学院では、  
一人ひとりが自己の核となる専門性を身につけ、  
「個」としての研鑽を重ねてきました。

それと同時に、それぞれの専門領域を越えて  
拡張される芸術領域のなかで、  
「多様性」にあふれた学びと出会いを体験し、  
ゆたかな可能性を広げられました。

そして今、領域だけでなく  
言語や文化の違いを越えて、  
志ある芸術家や研究者たちが  
世界中から京都に集まり、  
より国際的かつ学際的な環境が育まれようとしています。

どこよりもひらかれた「創造と研究の現場」として、  
どこまでも大きなチャンスとつながれる大学院へ。

私たちは挑戦と変革を続けていきます。

# 世界にひらかれた、 創造と研究の現場。

## CONTENTS

- 2 3つの専攻が目指す姿／研究科長メッセージ
- 3 学び方／留学生支援
- 4 領域紹介
- 5 大学院の特長
- 6 Incubation Program
- 7 研究センターとの連携
- 8 大学院年間行事
- 9 修士課程スケジュール／カリキュラム概要／  
グローバル・ゼミの学び方
- 13 博士課程スケジュール／カリキュラム概要
- 15 教育目標
- 17 説明会／教員面談／展覧会見学／  
お問合せ先／アクセス

# 3つの専攻が 目指す姿

オンライン学習の浸透を背景に、  
それぞれの環境にあわせた学びのスタイルで修士研究を進め、  
社会に芸術の専門的な知見と技倆を身につけた人材を送り出す大学院を目指します。

## 芸術専攻

### 対面

少数精鋭の体制で  
専門性を磨き  
トップアーティストへの道を拓く



## 芸術環境専攻

### 対面 + オンライン

集中授業と遠隔授業を併用し  
社会人にも適した学びの形態で  
自由な交流と探究から  
芸術を社会へ還元する



photo: Hideaki Hamada

## 芸術専攻 (通信教育)

### 完全オンライン

社会人が学びやすいWEB環境で  
思考と実践力を磨き  
芸術運動の担い手となる



Intensive Programs

Extensive Programs

## 研究科長メッセージ

本大学院では、「芸術専攻」「芸術環境専攻」「芸術専攻(通信教育)」の3専攻の中に、美術、デザイン、文化財科学、文化研究、芸術教育など実に多様な専門分野がひしめき合っています。それぞれ弾力性のある実践的な研究制作指導によって、清新な価値創出に取り組む研究機関です。既存の方法に甘んじることなく、方法そのものを組み立てる構想力を持ち、社会的要請に応えつつ、さらに新たな価値観を提示しようという意欲のある方は、ぜひ本大学院に集まってください。芸術の力で、新しい社会のかたちをつくりましょう。



### 上村 博

京都大学大学院文学研究科博士課程中退。京都大学文学部哲学科助手、  
パリ第四大学研究員を経て、1995年より本学に勤務。2019年4月より現職。  
芸術の理論的研究、特に芸術による場所と記憶の形成作用について研究。  
長らく社会人教育に携わる。



一人ひとりの学びを

自分に適した場所で積み上げる

## 学び方 / 留学生支援

本学大学院修士課程を修了すると、「修士(芸術)」(MFA)または「修士(学術)」(MA)が取得でき、博士課程を修了すると、「博士(芸術)」(DFA)または「博士(学術)」(PhD)が取得できます。芸術専攻・芸術環境専攻・芸術専攻(通信教育)のそれぞれの学び方や芸術専攻・芸術環境専攻を学ぶ留学生が安心して授業に取り組める特長的な学びを紹介します。

### 芸術専攻

 対面

京都・瓜生山キャンパスで少人数ゼミのなか、研究指導を受けつつ、研究や制作を進めます。美術作品の制作や文化財保存修復の研究などに適した専攻です。国内外のアート関係者との交流機会をさまざまに設け、大学附属の研究センターと連携して学びを深めていきます。また、グローバル・ゼミは英語による受講で修士号の取得が可能です。

### 芸術環境専攻

 対面 + オンライン

京都・瓜生山キャンパスや東京・外苑キャンパスなどでの集中授業と遠隔授業とを併用することで、授業の場所や時間割の制限が比較的少なく、現地調査やスタジオワークに適した専攻です。オンライン授業の割合を増やすことで、対面授業を専門分野の特性に応じて週2日～月1日とし、各自に合わせた学びの形態が選択可能。個人の実践的な活動や社会参加をサポートします。授業外での関わりにも注力し、バーチャル空間でのコミュニケーションツールを使用して、密な関係を築き上げます。

### 併設校 日本語学校との連携

外国人留学生がスムーズに研究・制作を進められるよう、本学大学院ではさまざまなケア・システムを整備しています。日常的なコミュニケーションはもちろん、論文執筆においても高い日本語力は必要不可欠。本学大学院ではキャンパス内にある併設校「京都文化日本語学校」と連携した、日本語力向上のための科目を正課内に開設しています。日常生活の相談は、学生支援の専門部署である学生生活窓口で留学生担当を配置。言語、文化、友人関係といったあらゆる相談を受け付けています。さらに、メンタル面での不調をはじめとするセンシティブな悩みについての窓口として学生相談室を設置しており、専門のカウンセラーが1対1で学生個々の問題に真摯に対応します。

Intensive Programs

### 芸術専攻(通信教育)

 完全オンライン

通学0日、完全オンラインで修了まで学べます。学習用WEBサイト「airU(エアール・ユー)マイページ」やオンライン会議システムZoom等を活用。レポート・作品提出、動画講義、個人ワークまたはグループワーク、研究記録、個別指導等をすべてWEBサイト上で行うことで、忙しい社会人でも各自がそれぞれのペースで、研究・制作を深められます。

Extensive Programs

## 領域紹介

本パンフレットは「芸術専攻」「芸術環境専攻」のパンフレットです。  
「芸術専攻(通信教育)」はWEBサイトを確認ください。

### 修士課程

	領域・ゼミ	分野
芸術専攻	美術工芸	彫刻・立体造形、陶芸、染織テキスタイル、写真・映像、日本画、油画、版画
	歴史遺産研究	歴史文化論、文化財科学、考古学、文化財保存修復論、庭園文化論
	グローバル・ゼミ	芸術表現・研究(リサーチベースアート、キュレトリアルスタディーズ)
芸術環境専攻	情報デザイン・プロダクトデザイン	情報デザイン、グラフィックデザイン、ビジュアルコミュニケーションデザイン、キャラクターデザイン、ゲームデザイン、プロダクトデザイン、イラストレーション、絵本、マンガ、アニメーション
	文化デザイン・芸術教育	文化創生(芸術教育(社会人学習支援、こども芸術教育、福祉のアート)、地域文化デザイン(SDGsデザイン、地域ブランディング、文化資源活用))、メディアコンテンツ研究(映画、映像、舞台、文学、マンガ論、アニメーション論)、超域制作学プログラム(アートプロデュース(後藤・鬼頭ラボ)、アートプロジェクト(保科ラボ))
	建築・環境デザイン	建築デザイン、インテリアデザイン、ランドスケープデザイン、都市・地域デザイン、日本庭園(設計、保全、活用) ※分野に分かれての学修ではありません。
芸術専攻(通信教育)	学際デザイン研究	〈デザイン思考・伝統文化の活用〉
	コミュニケーションデザイン	グラフィックデザイン、映像デザイン、空間デザイン
	文芸	〈文芸創作(純文学)、文芸創作(エンターテインメント)、評論・編集・活動支援〉
	芸術学・文化遺産	芸術学(芸術理論・西洋美術史、日本・東洋美術史)、文化遺産(歴史遺産、芸能史・伝統文化)
	写真・映像	〈写真、動画、アニメーション、写真映像に関する展示・出版〉
	美術・工芸	日本画、洋画、工芸デザイン(技法の実践(染織、陶芸、木工等)と手工文化研究)

### 博士課程

#### 芸術専攻

研究 / 研究・制作

新たな社会の

創造・成長を牽引していく

リーダーを世界へ輩出する

## 大学院の特長

### 【 拡張される芸術領域 】

#### 社会を動かす知恵と技を手に入れる

今や芸術や芸術をとりまく社会の変化は著しく、芸術の専門家に期待されるものも大きく変わってきています。そもそも芸術とは、本来、社会から隔絶した特殊な職域ではなく、さまざまな局面で創発的に発揮される知恵と技のことです。本学大学院では、今日の社会のさまざまな領域で課題を発見し、創造的な提案ができる人材の育成を目指しています。各専攻、各分野がそれぞれの研究対象に即して実践的指導を行うだけでなく、今日の文明についての批判的思考力を鍛えることで、単なる専門業界への入り口となるだけでなく、新たなアイデア、視点を獲得し、自身の研究者、制作者としての可能性を広げることができます。



### 【 創造と研究 】

#### 創造の現場と、研究の現場の、緊密な連携

多彩な工房やスタジオ、研究センター、さらには劇場施設まで有する本学大学院では、「創造の現場」と「研究の現場」がさまざまなかたちで連携し、多くの成果が生まれています。表現者は、創作だけでなく研究活動にも携わることで、自己の作品を言語化し、より力強い表現を手にすることができます。一方で、研究者は、表現者たちが芸術作品を生み出していく過程にふれることで、書物の中からは汲み取れない生きた芸術を学ぶことができます。多様な創造や研究が常に間近にある環境は、各自の活動に豊かな広がりをもたらしています。



### 【 インキュベーション 】

#### 国内外で活躍する、リーダーの養成

多くの領域・分野において、国際社会の中でリーダーシップを発揮できる人材が求められています。本学大学院では、ICA京都やアルトテックといったインキュベーション機構を設け、大学院生や修士生たちが社会で活躍するための支援を行っています。また、大学院生たちも、さまざまな国籍や背景を持つ者が集まり、日常的なコミュニケーションを通して国際感覚を養うことができる環境となっています。また、長く日本文化の中心として栄えた京都で学び、暮らす経験は、日本と世界との関係を見つめるうえで、貴重な示唆を与えてくれるはずです。

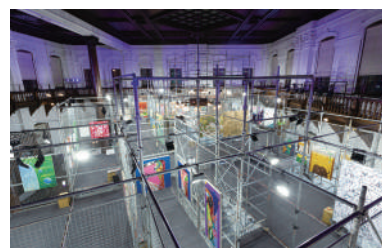


photo: 高橋 保世

## 世界にひらかれる大学院

本学大学院には大学院生や修了生の社会参加、国際交流を行うインキュベーションプログラムが用意されています。国内外のアート関係者との交流機会をさまざまに設け、それを通じて自立した芸術家やデザイナーとして活動する支援を行っています。

### CASE 01

## ARTOTHÈQUE

ARTOTHÈQUE(アルトテック)は大学院附属の商業ギャラリーとして、本学大学院の修了生のみならず次世代の若い才能を支援してきました。その活動はARTISTS' FAIR KYOTOへと発展し、多くの若いアーティストが作品を描くことで自立できるようになっています。コーポレートコレクションとして、ユニバーサル ミュージック ジャパン・OCA TOKYO(三菱地所)・DMG森精機などの美術館規模の収集が次々と誕生し、この活動に参加を希望する大学院志望者はますます増え続けています。

### 【ディレクターメッセージ】 アートのフェアトレード

近視眼的にグローバルアートマーケットを目指すのではなく、その問題点を解消するフェアトレード的な取り組みを目指しています。批評プロジェクトやNFT、海外のレジデンスへの紹介も含め、ネオ・アートワールドと一緒に生成しましょう!!



コーポレートコレクション事例 OCA TOKYO



### 榎昇

コンテンポラリーアーティスト、本学教授、ARTISTS' FAIR KYOTOディレクターなど。

### CASE 02

## ICA京都

本学のInstitute of Contemporary Arts Kyoto — 略称ICA京都は、アートの創作・展示・批評・研究がグローバルに展開されるようになった現代にあって、内外の同様なセンターとネットワークを結びながら、留学やレジデンスなどによる交流を具体的に促進する交換台のような役割を果たすべく、2020年度に創設されました。

### 【所長メッセージ】 「ICA京都」創設にあたって

たんなるジャーナリスティックな情報でも、アカデミックな論考でもない、グローバルなアートシーンの具体的現実アクセスし、またそれについて深く考えたいと思っているすべての人に注目していただければ、そして積極的に参加していただければ幸いです。



### 浅田 彰

京都大学卒業。同大学人文科学研究所・経済研究所を経て本学教授。

### CASE 03

## Pr PROJECTS

第一線で活躍するアーティスト、ギャラリスト、コレクター、キュレーターなどをゲストに招き、レクチャー、講評、ディスカッションなどの幅広い活動を展開。多角的な思考力や技術力を向上させるとともに、プロフェッショナルなアーティストを目指すものとしての“基礎体力”をつけていきます。その時々学生の研究、制作状況に応じて、臨機応変な運営を行います。

### 【ディレクターメッセージ】 実践的なアーティスト活動の方法を学ぶ

若手アーティストから「修了後のサヴァイバル方法を知りたかった」とよく耳にします。このプロジェクトでは、アーティストとして必要な「実践的な力(方法・思考法)」を養うための仕組みをつくり、学生ファーストのイベント、企画を行います。



### 大庭 大介

画家。本学准教授。2005年本学卒業後、2007年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究領域修了。

## 理論と実践力を養う

本学には大学の附属機関として独立したプログラムのもとで活動している研究センターがあります。大学院生はこれらのセンターが行う実際のプロジェクトに参加し研究を進めることができ、専門知識だけでなく、自主性や行動力、実社会で通用するスキルやノウハウなどを修得していきます。

### CASE 01

## 舞台芸術研究センター

舞台芸術の創造過程の総体を研究対象として、「創造の現場」と「学術研究」との有機的な結びつきを図るべく2001年に発足した舞台芸術研究センターは、学内劇場である「京都芸術劇場」を運営し、多様性を持ったプログラムを実践。また学内外の研究員による研究活動、及び他研究機関との共同研究などを推進し、舞台創造の現場と連携をとったネットワークづくりを目指しています。

### 【センター長メッセージ】 舞台芸術の「創造」と「研究」のダイナミックな融合

本センターは、<創造の現場>と<学術研究>を結びつける「場」です。その「場」で舞台というエンターテインメントを芸術全体の中で融合させながら、その成果を教育・社会に還元し、創造と研究を連携させた活動を行っています。大学院生の皆さんにこの「場」に参加していただくことを期待しています。



photo:井上 嘉和



**安藤 善隆**

1965年生まれ。本学教授。  
編集者・著述家・プロデューサー。

### CASE 02

## 日本庭園・歴史遺産研究センター

1996年に設立された日本庭園についての専門研究機関で、その後、歴史遺産研究部門を加え、活動の場を拡げました。日本の庭園文化に関する特色ある研究のほか、地方公共団体など多方面から、歴史的遺産の保全や活用に関する調査を受託しています。大学院生は、本研究部門が行う庭園文化に関する研究や公開講座の運営、受託調査に携わり、実践的な活動を行うことができます。

### 【センター長メッセージ】 受託研究に参加し、文化財保存修復の実践力を養う

史跡名勝平等院庭園管理、石清水八幡宮空中茶室・庭園復元研究プロジェクトなどの受託研究をはじめ、研究成果を発信する文化財保存修復基礎講座、公開シンポジウム等の自主事業を開催しています。大学院生の皆さんもぜひご参加ください。



**仲 隆裕**

元京都市文化財保護技師。博士(農学・京都大学)。本学歴史遺産学科長。

### CASE 03

## 文明哲学研究所

文明哲学研究所は、人類の幸福と平和な世界の実現を祈念した徳山詳直初代理事長の意思により2012年に設立されました。本学の建学理念である「芸術立国」の根底にある「芸術とは何か」「人間とは何か」という問いに向き合い、社会の中での芸術の役割、芸術と科学の関係、芸術が人のこころに及ぼす影響を人文社会科学、行動科学など多面的なアプローチで明らかにすることを目指しています。

### 【所長メッセージ】 多彩なアプローチで芸術の価値を探究し発信

真、善、とならぶ芸術(美)のもつ価値の本質について、さまざまな分野の研究者とともに考え、発信していきたいと思っています。芸術活動それ自身が人間の生き方や社会の在り方を変える原動力となることを、日々の研究の成果を通して示してゆくことが当研究所の使命です。



**吉川 左紀子**

本学学長。京都大学名誉教授。博士(教育学)。専門は認知心理学。

photo:中山 博喜



## 多様な刺激に満ちた日々

修士・博士課程の各年次において、大学院生はそれぞれの研究課題に向き合いながら、成果をさまざまな機会で見聞します。そして、学生同士のディスカッションや指導教員、他分野の教員たちからのアドバイスを通して、各自の専門性をより一層深めていきます。

大学院年間行事	
4月	入学式 中間発表会 <span>博士課程3年生</span>
5月	中間発表会 <span>博士課程2年生</span> テーマ発表会 <span>修士課程1年生</span>
6月	ギャラリー・オープン学生公募展
7月	<b>作品展示「SPURT」・作品講評会</b> <span>修士課程2年生</span> <b>中間発表会</b> <span>修士課程2年生</span>
8月	
9月	中間発表会 <span>博士課程1年生</span> 作品展示・作品講評会 <span>修士課程1年生</span> *芸術専攻
10月	
11月	博士学位申請(博士論文等提出) 大学院紀要リポジトリ公開 <span>博士課程</span> 中間発表会 <span>修士課程</span>
12月	<b>作品展示「D#」・作品講評会</b> <span>博士課程1,2年生</span> 作品展示・作品講評会 <span>修士課程1年生</span> *芸術環境専攻
1月	修士学位申請(修士論文等提出) 公開口頭試問 <span>修士課程2年生</span> <span>博士課程3年生</span> 学位審査作品展 <span>博士課程3年生</span> 中間発表会 <span>博士課程2年生</span>
2月	<b>修了展・修士論文発表会</b> <b>学生選抜展「DOUBLE ANNUAL」</b> 作品展示・作品講評会 <span>修士課程1年生</span> *芸術環境専攻
3月	<b>学位授与式</b>

※年度により開催時期や内容が異なる場合がございます。

### 修士課程2年生作品展「SPURT 2022」



7月 | 学内美術展示ホール(ギャラリー・オープン)

### 修士論文発表会



7月 | 学内各所

### 博士課程1,2年生作品展「D# 2022」



12月 | 学内美術展示ホール(ギャラリー・オープン)

### 学生選抜展「DOUBLE ANNUAL 2023」



2月 | 国立新美術館

### 京都芸術大学大学院修了展



2月 | 京都瓜生山キャンパス各所

### 学位授与式



3月

## 少数精鋭の体制で専門性を磨き、 トップアーティストへの道を拓く

京都・瓜生山キャンパスで少人数ゼミの中、研究指導を受けつつ、研究や制作を進めます。  
美術作品の制作や文化財保存修復の研究などに適した専攻です。国内外のアート関係者との交流機会をさまざまに設け、  
大学附属の研究センターと連携して学びを深めていきます。また、グローバル・ゼミは英語による受講で修士号の取得が可能です。

	修士1年次	修士2年次
前期	入学式 4月 オリエンテーション・ガイダンス 4月 履修登録 4月 研究・制作・発表助成審査 4月 指導教員の確定・研究計画書の提出 4月 論文テーマ発表 5月 作品展キックオフ 7月	オリエンテーション・ガイダンス 4月 研究・制作・発表助成審査 4月 研究報告・研究計画書の提出 4月 作品展キックオフ 5月中旬 学内展「SPURT」作品講評会 7月 論文中間発表会 7月 作品講評会 7月
後期	学修ガイダンス 9月 学内展 9月 論文中間発表会 11月 学生選抜展「DOUBLE ANNUAL」 2月 研究報告書および次年度研究計画書の作成 2月	学修ガイダンス 9月 論文題目提出 10月 修了展キックオフ 11月 修士学位申請(修士論文等提出) 1月 公開口頭試問 1月 修了展・修士論文発表会 2月 学生選抜展「DOUBLE ANNUAL」 2月 学位授与式 3月

### 【美術工芸領域】

プロフェッショナルとしての  
クオリティを獲得する

彫刻・立体造形、陶芸、染織テキスタイル、写真・映像、  
日本画、油画、版画



### 【歴史遺産研究領域】

歴史遺産を読み解き、  
伝承することをめざす

歴史文化論、文化財科学、考古学、文化財保存修復論、  
庭園文化論



### 【グローバル・ゼミ】

トップアーティスト、キュレーターを  
生むことだけを考え抜いたゼミ

芸術表現・研究  
(リサーチベースドアート、キュレトリアルスタディーズ)



## 専攻長メッセージ

どれほどデジタル化の進んだ時代であろうとも、人は人と会うことによってこそ大きく成長します。そこで芸術専攻では対面教育を基本としながら、一人一人の研究制作を徹底的に指導します。特に実践的な学びを重視することにより、キャリアに直結した密度の濃い教育を展開します。在学中に獲得された専門知識とさまざまな経験、幅広いネットワークは、それぞれの将来を力強く支えることでしょう。ぜひ一緒に切磋琢磨しませんか。

### 竹内 万里子

専門は写真史・写真論。早稲田大学政治経済学部卒業(政治学)、早稲田大学大学院修士(芸術学)。フルブライト奨学金を受け渡米。「パブリック」日本特集、「ドバイフォトエキシビジョン」日本部門など、国内外で展覧会企画、共著書多数。単著に『沈黙とイメージ 写真をめぐるエッセイ』、訳書に『ルワンダ ジェノサイドから生まれて』など。



## 多様性にあふれた自由な交流と探求から、 芸術を社会へ還元する

京都・瓜生山キャンパスや東京・外苑キャンパスなどでの集中授業と遠隔授業とを併用することで、授業の場所や時間割の制限が比較的少なく、現地調査やスタジオワークに適した専攻です。

	修士1年次	修士2年次
前期	入学式   4月 オリエンテーション・ガイダンス   4月 履修登録   4月 研究・制作・発表助成審査   4月 指導教員の確定・研究計画書の提出   4月 論文テーマ発表   5月	オリエンテーション・ガイダンス   4月 研究・制作・発表助成審査   4月 研究報告・研究計画書の提出   4月 学内展   7月 論文中間発表会   7月
後期	学修ガイダンス   9月 論文中間発表会   11月 学内展(情報デザイン・プロダクトデザイン領域)   12月 研究成果報告会   1月 学生選抜展「DOUBLE ANNUAL」   2月 学内展(建築・環境デザイン領域)   2月 学外展(文化デザイン・芸術教育領域)   2月 研究報告書および次年度研究計画書の作成   2月	学修ガイダンス   9月 論文題目提出   10月 修了展キックオフ   11月 修士学位申請(修士論文等提出)   1月 公開口頭試問   1月 修了展・修士論文発表会   2月 学生選抜展「DOUBLE ANNUAL」   2月 学位授与式   3月

### 【情報デザイン・プロダクトデザイン領域】

社会的課題を発見し、情報伝達や生活の新たな仕組みを提案する

情報デザイン、グラフィックデザイン、ビジュアルコミュニケーションデザイン、キャラクターデザイン、ゲームデザイン、プロダクトデザイン、イラストレーション、絵本、マンガ、アニメーション



### 【文化デザイン・芸術教育領域】

地域の個性を活かした文化をデザインし、人や社会の成長を支援する

文化創生  
 芸術教育(社会人学習支援、こども芸術教育、福祉のアート)  
 地域文化デザイン(SDGs デザイン、地域ブランディング、文化資源活用)  
 メディアコンテンツ研究  
 映画、映像、舞台、文学、マンガ論、アニメーション論  
 超域制作学プログラム  
 アートプロデュース(後藤・鬼頭ラボ)、アートプロジェクト(保科ラボ)

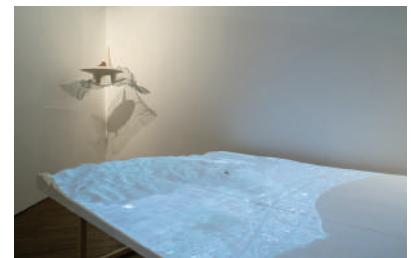


photo: Natsumi Kinugasa

### 【建築・環境デザイン領域】

地球的視野のもとで生活環境を見つめ、都市と居住空間をかたちづくる

建築デザイン、インテリアデザイン、ランドスケープデザイン、都市・地域デザイン、日本庭園(設計、保全、活用)



## 専攻長メッセージ

芸術環境専攻は、一言で要約すると「新しいデザイン思考による芸術研究」のための専攻です。3つの専門領域では、学生が自ら設定したテーマを指導教員とともに発展させながら、他分野との横断的交流や合同プログラムによる拡充を伴って、実践的・理論的研究が進められています。個と社会、情報と環境、生活、産業、技術、芸術、文化、教育、など、人類史の継続に関わるさまざまな問題を適切に理解し、自らの発想力、思考力、表現力を駆使して解決へと導こうとする意欲をもった学生に、ぜひ集まってほしいと願っています。

### 佐藤 博一

京都工芸繊維大学大学院修士課程修了後、ビジュアルデザイン、絵本、編集、写真表現を中心に、教育と研究に携わる。デザインの分野では、書籍の装丁、広報印刷物・雑誌のグラフィック、展覧会カタログ・作品集の編集とデザイン、展示設計等、多数の仕事がある。写真の分野では、個展・グループ展を中心に活動している。意匠学会、絵本学会、日本展示学会、日本児童文学学会に所属。



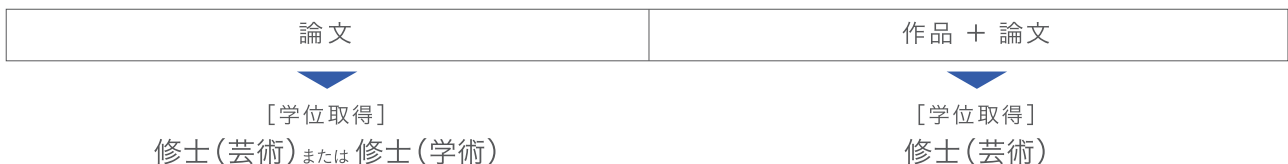
## 修士課程 カリキュラム概要

所属専攻に合わせた受講形式で、専攻を超えた学習を行うことが可能です。新たな視点による芸術文化研究あるいは芸術表現に取り組む基礎を養い、今日的な課題の理解とその具体的な解決に向けた方法論を学びます。

必修要件を含み32単位以上を修得し、「論文」または「作品と論文」の審査に合格すると、修士(芸術)の学位を取得できます。但し、歴史遺産研究、文化デザイン・芸術教育、建築・環境デザインなどの専門的領域の研究論文については、内容によって修士(学術)が授与されます。

※芸術専攻 グローバル・ゼミは以下のカリキュラムとは異なります。

<p><b>必修特論</b> (必修履修)</p> <p>日本の芸術文化を広い視野から概観すると共に、トップランナーの言葉に刺激を受け自己の専門的視座を問い直す。(芸術文化論特論1・2 各2単位)</p>	<p>さまざまな地域、時代、ジャンルを超えた芸術文化の主題を中心に展開し、全学生の問題意識の共有化を図る必修科目。第一線で活躍している研究者、作家等をゲストとして招へいし、講義・ディスカッションを通して問題発見、批評、分析、論述能力の伸長を期す。</p> <p>[ <b>芸術専攻</b> ] 対面での受講                  [ <b>芸術環境専攻</b> ] 対面、オンライン配信(リアルタイムの視聴)、オンデマンド配信のいずれかを選択して受講が可能</p>	
<p><b>原論</b> (所属専攻科目を1科目以上選択履修)</p> <p>3専攻より提供される18科目から選択履修を行うことが可能。芸術文化の基底となる考え方や研究の基本的道筋を学ぶ。(各2単位)</p> <p>※2023年度の内容です。</p>	<p>[ <b>芸術専攻</b> ] 対面受講(芸術専攻以外の履修者は配信の視聴が可能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思想としての芸術</li> <li>・文化財保存修復の視点からみた美術作品</li> <li>・日本絵画史</li> <li>・美術を空間との関係から考える</li> <li>・比較文化論を英語で読む</li> <li>・芸術と社会</li> </ul> <p>[ <b>芸術環境専攻</b> ] オンデマンド配信を基本として数回のディスカッションを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サステイナブルデザイン論</li> <li>・建築と都市空間</li> <li>・地域と文化創生</li> <li>・メディアコンテンツ論</li> <li>・芸術の場所論</li> <li>・工芸デザイン論</li> </ul> <p>[ <b>芸術専攻(通信教育)</b> ] 動画視聴、テキスト学習による完全遠隔授業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配信の時代の著作権</li> <li>・絵画技法材料学</li> <li>・AIと芸術制作</li> <li>・演劇論</li> <li>・パーソナルメディア論</li> <li>・古典文化とその再生</li> </ul>	
<p><b>分野特論</b> (1科目以上選択履修)</p> <p>研究・制作の基礎、基盤となる、より専門的視座に特化した講義科目。(各4単位)</p> <p>※2023年度の内容です。</p>	<p><b>芸術専攻</b> 所属領域に限らず受講が可能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代アートの原点：マルセル・デュシャンとサミュエル・ベケット</li> <li>・日本の喫茶文化</li> <li>・文化財保存修復の理論と技術</li> <li>・現代作家としての思考法とプレゼンテーションの技術を学ぶ</li> <li>・ポスト・ヒューマンズ時代の芸術／近現代美術を批評の観点から読み解く</li> <li>・アナロジーから同定へ</li> <li>・日本芸能の中の海外性と国内性</li> </ul>
<p><b>演習・研究</b></p> <p>指導教員による研究・制作指導を中心にしながら、分野横断的な領域ゼミ、専攻内合同プレゼンテーション等を通じて複数の教員の視点によるアドバイスも定期的に行っていく。</p>	<p><b>芸術環境専攻</b> 演習・研究科目と一体的に学習を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報デザイン・プロダクトデザイン領域 専門分野特論1,2</li> <li>・建築・環境デザイン設計特論1,2</li> <li>・文化デザイン・芸術教育領域 専門分野特論1,2</li> </ul> <p>*領域ごとに指定科目を履修。</p>
<p><b>特殊演習</b></p> <p>領域を問わず、全領域の学生を対象としたテーマ別演習。</p>	<p>演習 1 (4単位)</p>	<p>課題設定のための基本調査、研究方法の実践的検討など、修士課程における基盤を整える。</p>
<p>学術基礎 1～7</p>	<p>演習 2 (4単位)</p>	<p>専門領域における演習によって知見をさらに深める。</p>
<p>建築実務演習 1～5 建築総合演習・建築総合研究</p>	<p>研究 1 (4単位)</p>	<p>専門演習からの継続性を重視しつつ、得られた成果を展開して学位審査に向けた課題を設定する。</p>
	<p>研究 2 (4単位)</p>	<p>研究成果の提示方法の研鑽に主眼を置き、学位申請のための成果物を完成させる。</p>



## トップアーティスト、キュレーターを 生むことだけを考えたゼミ

「世界で活躍できるクリエイター」を育てることに特化したスペシャルプログラムのため、1学年たった5名という少人数制を採用。総合力と跳躍力のあるアーティストやキュレーターを育てます。ゲスト講師による集中レクチャーをはじめ、「ここにしかない」学びに満ちた環境です。

※修士課程 芸術専攻の他領域のカリキュラムとは、履修形態が異なりますが、修了要件や取得学位は同じです。各科目の履修方法はグローバル・ゼミ独自のプログラムで実施され、以下のような年間スケジュールで行います。



イタリア ヴェネツィア・ビエンナーレ訪問

### 海外をはじめとした学外研修で 世界的アートシーンの現実を 肌身で学ぶ

世界的アートシーンで活躍するためには、その現実を実体験から学ばなくてはなりません。そこで大学院グローバル・ゼミでは京都、東京、海外といったさまざまな学外研修プログラムを準備。美術館、ギャラリー、アーティストのスタジオ・ピットを通して「世界の空気」を身につけます。



### 世界的なクリエイターたちが キャンパスを来訪 アートを英語で語り合う

世界の第一線で活躍する国内外のアーティストやキュレーターをゲスト講師に迎え、2週間の集中授業を年間約6回実施。授業の進行は英語が中心となるため、コンセプトやステートメントのプレゼンテーションなどを通して、アーティストやキュレーターに必須の英語力を実践的に学べます。

### 年間スケジュール

4月	キックオフミーティング
5月	ゲスト講師による集中授業1 京都研修 <small>【修士課程1年生】</small>
6月	ゲスト講師による集中授業2
7月	ゲスト講師による集中授業3 京都研修 <small>【修士課程1年生】</small>
8月	国内研修 <small>【修士課程1年生】</small>
9月	海外研修 <small>【修士課程2年生】</small>
10月	ゲスト講師による集中授業4 京都研修 <small>【修士課程1年生】</small>
11月	ゲスト講師による集中授業5
12月	ゲスト講師による集中授業6 京都研修 <small>【修士課程1年生】</small>
1月	学位審査(修士論文等提出) 東京研修 <small>【修士課程1年生】</small>
2月	修了展・修士論文発表会 <small>【修士課程2年生】</small> 学生選抜展「DOUBLE ANNUAL」
3月	

※年度により開催時期や内容が異なる場合がございます。

## アドバイザーメッセージ

さまざまな文化圏、歴史、社会環境、そして価値観をもったトップレベルのアーティストやキュレーターと出会うことで、アートシーンで活躍するための選択肢が星の数ほどあることを、具体例にふれながら実感してほしい。一度きりの講演では、彼らが探求する領域や実践への深い理解も得られず、学生たちが具体的なアドバイスを受けることも難しい。そのため、1学年5名の少人数制にし、複数の視点をもった年間6名のゲスト講師から各2週間集中して学びながら、現代社会を取り巻く課題について議論を深める「ここにしかない学びの形」を生み出しました。講師との関係性は卒業後も続き、徐々に成果が広がっています。

[ 大学院グローバル・ゼミアドバイザー ]  
[ 初代ディレクター ]

### 片岡 真実

本学大学院芸術研究科客員教授。森美術館館長、国立アートリサーチセンター長。これまでに国際芸術祭「あいち2022」、第21回シドニー・ビエンナーレ芸術監督、第9回光州ビエンナーレ共同芸術監督を歴任。2020～2022年は国際美術館会議会長。



photo: Kenryou GU

### 2023年度 グローバル・ゼミ ゲスト講師

#### ブレット・リットマン Brett Littman

イサム・ノグチ財団、庭園美術館館長  
[ アメリカ合衆国 ]



#### 金澤 韻 Kodama Kanazawa

インディペンデントキュレーター  
[ 中国 / 日本 ]



#### レオノール・アントウネス Leonor Antunes

アーティスト [ ドイツ ]

#### 奥村雄樹 Yuki Okumura

アーティスト [ ベルギー / オランダ ]

#### リー・キット Lee Kit

アーティスト [ 香港 ]

#### ウンジー・ジュー Eungie Joo

サンフランシスコ近代美術館キュレーター [ アメリカ合衆国 ]

## 「理論研究」と「制作研究」によって 博士号取得を目指す

京都芸術大学大学院の博士課程は、小規模のゼミ指導により論文執筆や作品制作を進め、博士（芸術または学術）の取得を目指します。京都・瓜生山キャンパスでのゼミ指導をもとに研究制作を進めることを基本としますが、専門分野によっては、京都に居住せずに指導を受けることが可能です。

	博士1年次	博士2年次	博士3年次
前期	入学式 4月 オリエンテーション・ガイダンス 4月 個別面談 4月 履修登録 4月 研究・制作・発表助成審査 4月 指導教員の確定・研究計画書の提出 4月 大学院紀要エントリー 4月 博士課程交流会 5月 大学院紀要論文原稿・許諾書等の申請 7月 大学院紀要査読 8月	ガイダンス 4月 履修登録 4月 研究・制作・発表助成審査 4月 研究報告・研究計画書の提出 4月 大学院紀要エントリー 4月 博士課程交流会 5月 論文中間発表会 5月 大学院紀要論文原稿・許諾書等の申請 7月 大学院紀要査読 8月	ガイダンス 4月 履修登録 4月 研究・制作・発表助成審査 4月 論文中間発表会 4月 研究報告・研究計画書の提出 4月 大学院紀要エントリー 4月 博士課程交流会 5月 大学院紀要論文原稿・許諾書等の申請 7月 学位申請予備審査(確認)願提出 7月 大学院紀要査読 8月
後期	個別相談 9月 論文中間発表会 10月 大学院紀要リポジトリ公開 11月 作品展「D#展」作品講評会 12月 研究業績(研究・制作成果報告書)提出 1月 次年度研究計画書の作成 2月 個別相談 3月	個別相談 9月 論文中間発表会 10月 大学院紀要リポジトリ公開 11月 作品展「D#展」作品講評会 12月 論文中間発表会 11月 研究業績(研究・制作成果報告書)提出 1月 次年度研究計画書の作成 2月 個別相談 3月	学位申請(博士論文等提出) 10月 大学院紀要リポジトリ公開 11月 学位審査作品展 1月 学位審査口頭試問 1月 研究科目単位認定試験 2月 学位論文正本・データ提出 3月 学位授与式 3月



作品展「D#展」作品講評会



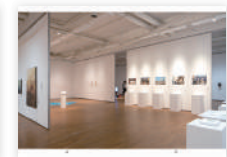
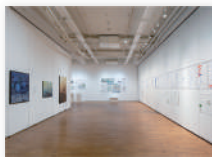
論文中間発表会



京都芸術大学大学院紀要



D#2021 Album



### 専攻長メッセージ

博士課程では3年間で学位取得を可能とする綿密な学修スケジュールを立てています。理論研究のみの方も、制作研究を伴う人も、毎年、本学大学院紀要を含む学術雑誌への論文投稿・掲載、学会等での口頭発表によって研究成果を世に問い、最終的に博士学位申請論文にまとめます。制作を伴う人には、さらに学内展覧会「D#展」への出品とこれに伴う口頭発表の機会も用意しています。教員は現役の制作者や研究者として新たな成果を世に問うという皆さんと同じ目標を抱く、良いアドバイザーです。本学で切磋琢磨し、自身を大きく成長させてください。

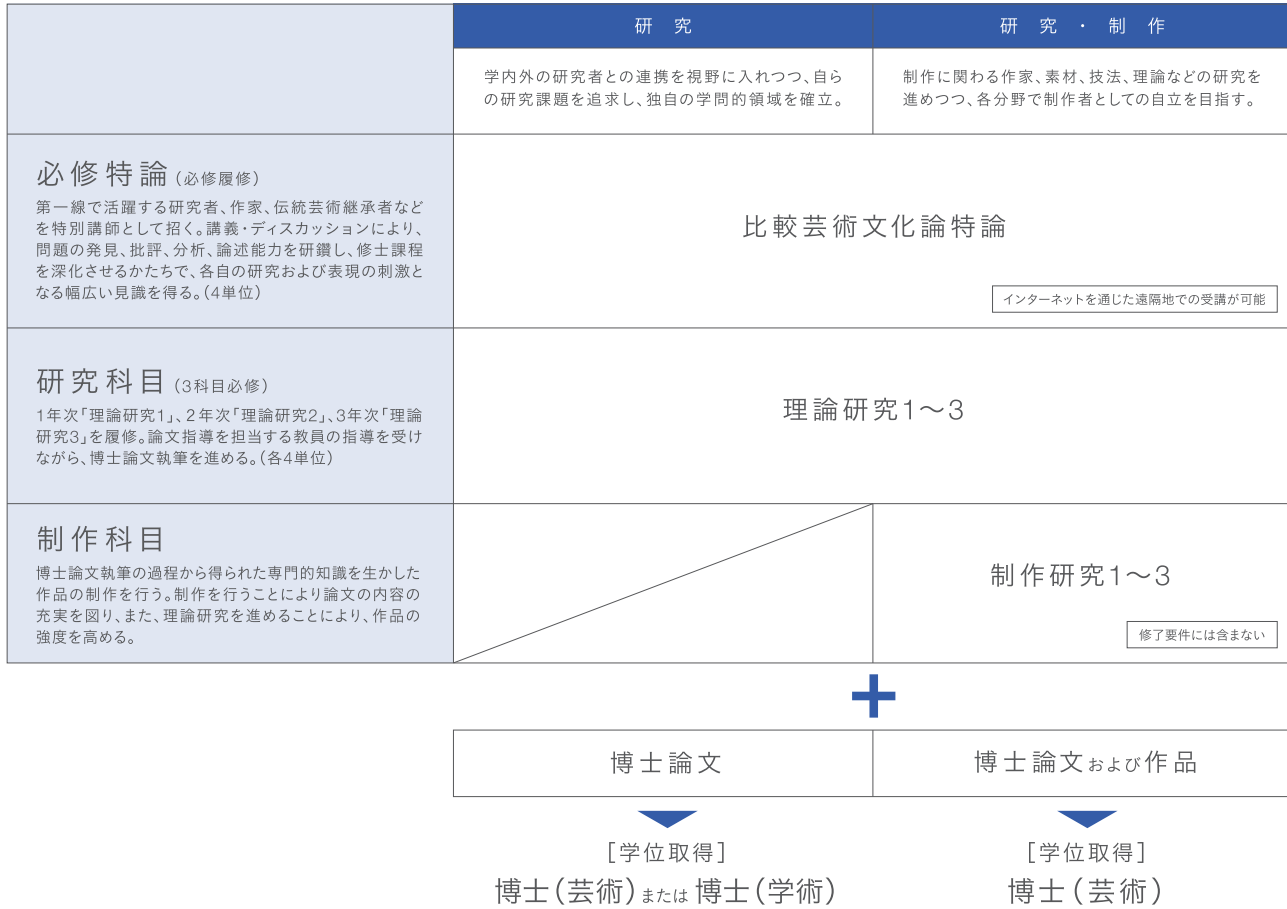
### 河上 眞理

早稲田大学大学院博士課程在学中、N.Y.S.R. グッゲンハイム財団奨学金によりP.グッゲンハイム美術館で研修を受ける。1995年度イタリア政府奨学金留学生としてヴェネツィア・カ・フォスカリ大学文学部美術史学科に留学。翌年博士課程に入学。2001年Ph.Dを取得。在イタリア日本国大使館外務省専門調査員の職を得て日伊交流事業にも従事。2019年より現職。



## 博士課程 カリキュラム概要

16単位以上を修得し、論文の審査および試験に合格すると博士(芸術)の学位を取得できます。  
研究論文の内容によって、本学が認めた場合、博士(学術)が授与されます。



### [ 博士課程学位審査について ]

各年次に1本の査読付論文を執筆し、

本学が発行する研究論文集『大学院紀要』をはじめとした学術誌に掲載、もしくは学会で発表することが求められます。

3年次にはそれまでに執筆した3本の論文(研究成果)をベースとして、序文、結論を付加し1本の博士論文に整えます。

その後、論文審査と口頭試問による学位審査に臨みます。



### [ 2022年度 論文題目 ]

- ◎POST/PHOTOGRAPHYの2020年代の展開を論考する
- ◎古代日本庭園の底流にあるアニミズム的要素—祭祀空間の造形と文化的営みから—
- ◎「感覚変容」の映像表現研究
  - 「感覚変容映像」の分類・分析とアニメーションによる拡張の可能性—
- ◎釣竿に見る「用の美」—明治以降の六角竿、その興隆と衰退そして可能性—
- ◎近代以降に発生した線状空間及びリニアパークについての研究
  - 日米を中心としたその生成要因、類型、社会的影響について—

論文指導教員一覧および  
制作指導教員一覧は  
WEBサイトに  
掲載しています。



研究論文集『大学院紀要』や  
博士論文はWEBサイトに  
リポジトリ公開を  
行っています。



## 教育目標(修士課程・博士課程)

### 教育目標(3つのポリシー)

#### ＞大学の基本使命

芸術を学ぶ者たちが、来るべき文明の姿を思い描き、人類危機の時代を克服するという強い意志をどう身につけるか。  
そしてまた、他者の痛みに想像力を働かせ、多くの人々の幸せのために芸術の力を用いる姿勢をどう培うか。  
すなわち、良心をもって社会を変革する芸術家魂をどう育てるか。藝術立国とは、藝術立国を担う人間の成長にほかならない。  
芸術文化を原動力とする文明への展望と、人類と自然への深い愛情に満ちた哲学を持った人間を輩出する。  
それこそが、本学の最も重要な使命である。

#### ＞建学の理念

芸術と哲学によって、新しい人間観、世界観の創造を目指す。

#### ＞教育目標

人類が直面する困難な課題を克服するために、  
「人間力」と「創造力」を鍛え、社会の変革に役立てることのできる人材を育成する。

## 大学院 芸術研究科 修士課程 芸術専攻

### ＞ディプロマ・ポリシー

修士課程 芸術専攻では、芸術・文化に関する広範で清新な知識を基礎にして、  
社会や自然における芸術の意義と役割を認識するとともに、  
個別の専門領域において発見した独自のテーマを柔軟かつ論理的な思考によって展開し、  
高度な成果物として表現できる人材を育成します。  
さらに、学位の種別に応じて、次の能力の獲得を目指します。

- ・既存の価値観にとらわれることなく、新たな視点による学際的研究に取り組み、その成果を学術論文としての確にまとめる能力(「修士(学術)」授与の場合)。
- ・自己と他者、芸術と社会、個と全体の関わりについて真摯に向き合い、高度な意志疎通能力と呈示能力を備え、作家、研究者などの専門的職業人や芸術的手法を駆使する社会人として、芸術分野の将来的発展に寄与する能力(「修士(芸術)」授与の場合)。

### ＞カリキュラム・ポリシー

- ・「芸術による平和創造」という本学全体の理念の共有化を図るとともに、日本の芸術・文化の普遍性と個性を広い視野から概観することによって、学生の研究または研究・制作活動を刺激し、テーマの発見・探究・創出の糸口を提示します。
- ・研究または研究・制作を進める上での基礎となる方法に関して、芸術研究の支柱である「比較論、歴史、造形史、精神史、身体論的研究」の各視座からその基底となる考え方を教示します。
- ・各学生の専門的視座に特化した講義科目を開講し、新たな視点による芸術文化研究あるいは芸術表現に取り組む基礎を養います。
- ・各学生に主たる指導教員を配し、個別指導を行います。  
1年次は、主として問題意識の啓発とその研究展開を図る方法論を指導します。  
2年次は、1年次からの継続性を重視しつつ、学位審査に向けた(研究または研究・制作)課題の設定と、その提示方法の研鑽に主眼を置くものとします。
- ・各学年において中間発表会を開催し、主たる指導教員以外からの指導を仰ぎ、修士成果物の質的向上を図ります。

### ＞アドミッション・ポリシー

求める学生像および入学選抜の基本方針は以下の通りです。

1. 豊かな感性と柔軟な思考を有し、学士課程の基礎をふまえ、各自の専門領域を構築して造形思想を深めるための能力を有していること。
2. 芸術に関する基礎的な教養を有し、的確で論理的な思考とコミュニケーションの能力を有していること。

※日本語と英語の読解力・表現力を有していること。



## 大学院 芸術研究科 修士課程 芸術環境専攻

### ▷ ディプロマ・ポリシー

修士課程 芸術環境専攻では、芸術的洗練と哲学的思索によって人類の福祉や生活環境の向上に資するための研究遂行を目的とし、国際的視野をもちつつ、地域や組織のなかでその研究成果を活かすことのできる人材を育成します。

本専攻で修了時に学生が身につけるべき能力を以下のように定め、所定単位を修得し、学位申請提出物の審査に合格することで、これらの能力を獲得したものとみなし、修士の学位を授与します。

- ・ 地域や組織の問題をときほぐし、みずからの任務を見定める理解力
- ・ 着想のひらめきを具体的な空間に展開できるしなやかな構想力
- ・ 他者と協力して現実に向き合い、たくましく計画を遂行する制作力

### ▷ カリキュラム・ポリシー

- ・ 専攻共通科目(原論・特論)では、国際的、世界史的な視野からみずからの研究制作を反省し、その理論的基盤と芸術教養を身につけます。
- ・ 分野特論では、現役の専門家による特化したテーマの講義を受け、今日的な課題の理解とその具体的な解決に向けた方法論を学びます。
- ・ 研究指導科目(演習・研究)では、専門家による定期的な指導と集中ワークショップ、それにゼミでの研究交流を通じて学生各自の研究制作を遂行します。
- ・ これらに加え、特殊演習・インターンシップ科目では、専門分野を越えた活動の機会を提供することで、学生各自の知見をさらに拡げます。

上記の各科目はその特性に応じ、以下のような授業形態をとります。

- ・ 遠隔講義と反転学習(原論・特論)
- ・ 集中的なワークショップやプロジェクトへの参加と振り返り(分野特論と演習・研究の一部)
- ・ 遠隔通信手段を利用した継続的な研究指導とディスカッション(演習・研究)

### ▷ アドミッション・ポリシー

求める学生像および入学者選抜の基本方針は以下の通りです。

1. 社会の課題に真摯に向き合い、みずからの力で解決をはかろうとする意欲を持っていること。
  2. 芸術に関する基礎的な教養を有し、柔軟な思考とコミュニケーションの能力を有していること。
  3. 各自の専門分野に応じて、修士研究・修士制作を遂行しうる基礎的な能力を有していること。
- ※日本語と英語の読解力・表現力を有していること。

## 大学院 芸術研究科 博士課程 芸術専攻

### ▷ ディプロマ・ポリシー

博士課程では、人類の叡智を発展的に継承し、

芸術・文化に関する優れた理論研究または研究・制作に邁進し、その成果を国際社会に広く発信することによって、芸術による平和創造の礎を築く人材を育成します。

- ・ 理論研究においては、芸術による平和創造に寄与する価値観の構築を目指し、既存の学問分野にとらわれることなく、幅広い視野と斬新な視点によって芸術文化の神髄に迫る能力の獲得を目指します。
- ・ 芸術表現・制作においては、柔軟な思考と斬新な技術によって創造の地平を切り開き、真に現代的な芸術表現に挑み続ける能力の獲得を目指します。

### ▷ カリキュラム・ポリシー

- ・ 徹底した個別指導を基本とし、研究者／制作者としての自立を促します。
- ・ 研究発表・展覧会での作品発表を積極的に促し、多くの視点からの批判を仰ぐことにより、研究／制作の質的向上を図ります。

### ▷ アドミッション・ポリシー

求める学生像および入学者選抜の基本方針は以下の通りです。

1. 専門領域における広範かつ深淵な知見を有し、かつ新たな価値観の構築にむけて真摯に取り組む姿勢を有していること。
2. 基本的には3年間で日本語による博士論文を完成させうる研究計画と遂行力を有していること。
3. 外国語(基本的に英語)による専門的語学力を有していること。

## 説明会・教員面談・展覧会見学

入学説明会の参加や教員面談を希望される場合は、必要事項を予約フォームに記載し、申込期間内に必ず予約してください。詳細は下記申込先へ。

### 【 説明会 】

#### 入学説明会・領域別説明会(オンライン)

各課程・領域の担当教員が入学説明会を行います。

日程	時間	参加申込期間
6月24日(土)	10:00～17:00	6月10日(土)～6月24日(土)

#### 専攻説明会(対面)

※10:00～17:00はSPURT展の展示をご覧ください。

日程	時間	参加申込期間
7月8日(土)	13:00～15:00	6月24日(土)～7月8日(土)

### 【 教員面談(オンライン) 】

「参加申込期間」に申込後、必ず「教員面談申込期間」に面談時間の申込を行ってください。

	日程	時間	参加申込期間	教員面談申込期間
第1回	6月24日(土)	10:00～17:00	6月10日(土)～6月15日(木)	6月20日(火)～6月22日(木)
第2回	7月22日(土)		7月8日(土)～7月13日(木)	7月18日(火)～7月20日(木)
	7月23日(日)			
第3回	11月4日(土)		10月21日(土)～10月26日(木)	10月31日(火)～11月2日(木)
	11月5日(日)			

### 【 展覧会見学 】

※教員との面談や相談はできませんが、自由に学内や展示をご覧ください。

#### 学内展示

展示会名	時間	展覧会日程	申込期間
〈修士〉芸術専攻2年生作品展「SPURT2023」	10:00～17:00	7月7日(金)～7月17日(月・祝)	6月24日(土)～7月17日(月・祝)
〈修士〉芸術専攻1年生作品展		9月23日(土・祝)～10月1日(日)	9月9日(土)～10月1日(日)
〈修士〉芸術環境専攻1年生作品展(情報デザイン・プロダクトデザイン領域)		12月14日(木)～12月24日(日)	12月1日(金)～12月24日(日)
〈博士〉1,2年生作品展「D#2023」		12月14日(木)～12月24日(日)	12月1日(金)～12月24日(日)
京都芸術大学大学院修士展		2024年2月3日(土)～2月11日(日・祝)	2024年1月20日(火)～2月11日(日・祝)
〈修士〉芸術環境専攻1年生作品展(建築・環境デザイン領域)		確定次第、WEBサイトに掲載	確定次第、WEBサイトに掲載

#### 学外展示

展示会名	時間	展覧会日程	申込期間
学生選抜展「DOUBLE ANNUAL2024」	10:00～17:00	2024年2月20日(火)～3月3日(日)	2024年2月6日(火)～3月3日(日)
〈修士〉芸術環境専攻1年生作品展(文化デザイン・芸術教育領域)		確定次第、WEBサイトに掲載	確定次第、WEBサイトに掲載

### 【 申込先 】

<https://www.kyoto-art.ac.jp/graduate/admission/briefing/>

※応募人数によっては個別面談ではなく、グループ面談になる可能性があります。



## お問合せ先

京都芸術大学 大学院 ☎ 0120-591-200 (アドミッション・オフィス) ✉ [graduate@office.kyoto-art.ac.jp](mailto:graduate@office.kyoto-art.ac.jp)

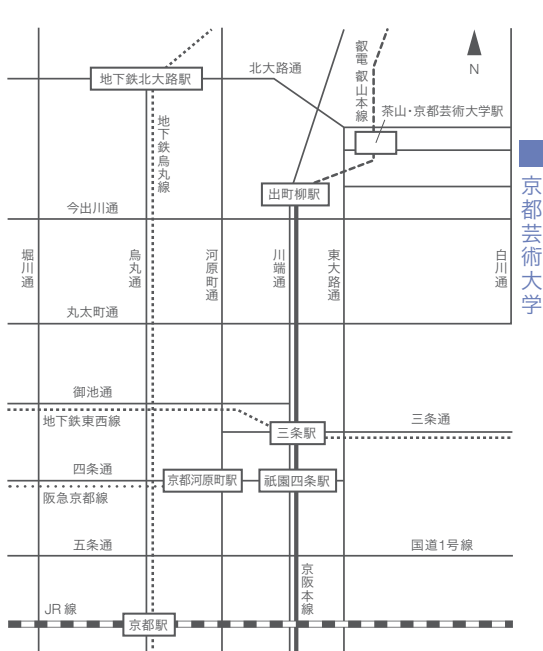
受付時間: 月～土 9:00～17:30 日曜・祝日・年末年始は受付できません。

通信制大学院 ☎ 0120-20-9141 ✉ [tsushin@office.kyoto-art.ac.jp](mailto:tsushin@office.kyoto-art.ac.jp)

修士課程 芸術専攻(通信教育)に関しては、大学WEBサイトを確認ください。

海外事務所 ソウル事務所 TEL: +82 70-7012-8260 ✉ [seoul@office.kyoto-art.ac.jp](mailto:seoul@office.kyoto-art.ac.jp)  
台北事務所 TEL: +886 975-922-905 ✉ [c-wu@office.kyoto-art.ac.jp](mailto:c-wu@office.kyoto-art.ac.jp)  
上海事務所 TEL: +86 156-1801-0354 ✉ [shanghai@office.kyoto-art.ac.jp](mailto:shanghai@office.kyoto-art.ac.jp)

## アクセス

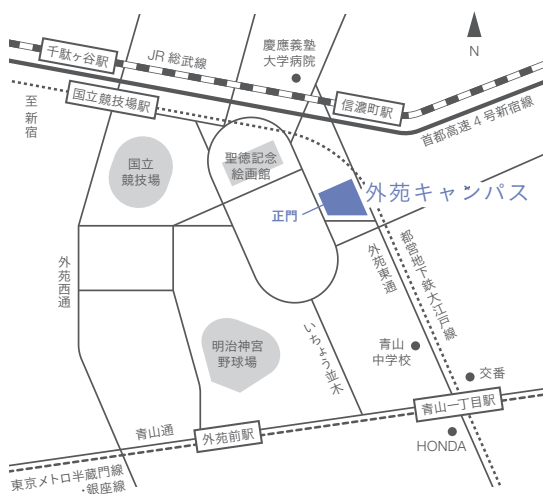


うりゅうやま  
京都・瓜生山キャンパス  
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

### [ 交通機関 ]

- ▶ 地下鉄「北大路駅」(北大路駅バスターミナル)より  
市バス204系統循環/  
銀閣寺方面「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車(所要時間約15分)  
※地下鉄北大路駅へはJR京都駅より約15分
- ▶ 京阪「出町柳駅」より  
市バス上終町3系統/上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前行  
「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車(所要時間約15分)  
叡山電車(京阪「出町柳駅」乗りかえ)「茶山・京都芸術大学駅」下車後、徒歩約10分
- ▶ 阪急「京都河原町駅」より  
市バス5系統/  
銀閣寺・岩倉行「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車(所要時間約30分)  
市バス上終町3系統/  
上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前行「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車  
(所要時間約30分)
- ▶ JR「京都駅」より  
市バス5系統/銀閣寺・岩倉行「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車(所要時間約50分)

※所要時間はあくまで参考としての標準時間です。  
※本学には駐車場がありません。車・オートバイ・自転車での来学はご遠慮ください。  
※本学の最寄りのバス停は「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」です。



東京・外苑キャンパス  
〒107-0061 東京都港区北青山1-7-15

### [ 交通機関 ]

- ▶ JR総武線「信濃町駅」より  
改札を左折、徒歩約5分
- ▶ 東京メトロ半蔵門線・銀座線・都営地下鉄大江戸線「青山一丁目駅」より  
0番出口、徒歩約10分

※所要時間はあくまで参考としての標準時間です。  
※本学には駐車場がありません。車・オートバイ・自転車での来学はご遠慮ください。